あなたはあなたであるとき、最も輝く。

教室のど真ん中に置くのは、

「君が、君の力で、一歩を踏み出すこと。

君がどこにいて、どんな状況にあっても、それを一番大切にする」

— 葛原祥太（葛原学習研究所 所長）



学ぶとは、やってみると考えるがぐるぐる回ること。

幼い子が言葉を言おうと何度も挑戦し、やがて言えるようになるのも学びです。人は生まれた時から、このサイクルを回しています。

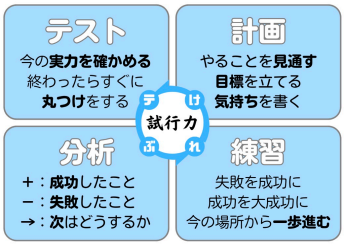
泳ぎ方を習えばほとんど全員が泳げるように、**学び方を渡せば、全員ができるようになる。**だから学び方そのものを、全員に教えます。

学び方は、3つの柱で渡す

やってみる・考える・心を見る

やってみる

けテぶれ

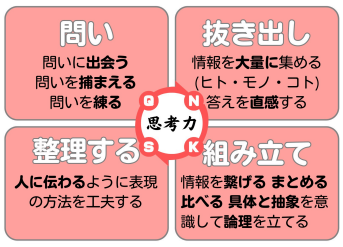


計画 → テスト → 分析 → 練習

頭文字「け・テ・ぶ・れ」が名前。
できないことを、できるようにする学び方の型。

考える

QNKS

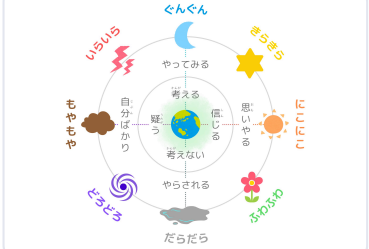


問い → 抜き出し → 組み立て → 整理

Q＝問い・N＝抜き出し・K＝組み立て・S＝整理。わからないことを、わかるようにする考え方の型。

心を見る

心マトリクス



今の心は、どこにいる？

自分の心の今の位置を見るための地図であり、眼鏡。

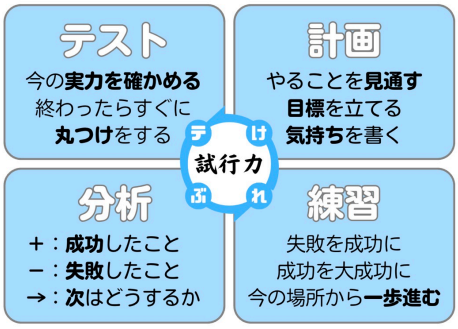
けテぶれとQNKSで学びを動かし、心マトリクスで今の自分を見る。

2ページ けテぶれとQNKS ／ 3ページ 心マトリクスと教室 ／ 4ページ 次の一歩

やってみる、考える。

やってみて、考えて、行き来しながら進む

けテぶれ　「できない」を「できる」へ



右上の「計画」から左回りに：計画 → テスト → 分析 → 練習
真ん中の「試行力」は、やってみる力

● 子どもは、練習で賢くなる

分析で見つけた「できない所」に向けて練習する。まず量を確保し、そこに工夫という質を足していきます。

● テストは、自分でできる

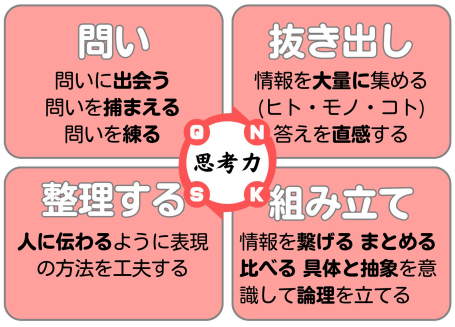
学校のテストも、自分で丸を付けるテストも本質は同じ。結果を受け取り、次の一手を自分で決める材料にします。

● 分析は、3+3観点で

まず左の3つから。慣れたら右の3つへ。書きためた記録が、自分を知る材料になります。

＋ よかったこと・成功（＋理由）	！ 大切だと思ったこと・気づき
－ よくなかったこと・失敗（＋理由）	？ わからないこと・知りたいこと
→ 次はどうするか（いつ・どこで・どのように）	☆ 自分の成長や変化、好き嫌い・得意苦手への気づき

QNKS　「わからない」を「わかる」へ



左上の「問い」から右回りに：問い → 抜き出し → 組み立て → 整理
真ん中の「思考力」は、考える力

2つのルートで使う

読む　教科書や資料を読んで、理解する
伝える　考えを整理して、作文や発表で伝える

● 論理は、言葉とつながりでできている

だから論理的に考える手順は、必ずこの流れになります。探究のサイクルも、教科書の流れも、発問から板書へのまとめも同じ流れです。

● 考えを、紙の上に出す

頭の中だけでは、同時に持てる情報はわずか。書き出すと頭が空き、次のつながりを組めます。

● K（組み立て）は、四角と線で

言葉を四角に、つながりを線とつなぎ言葉にした「論理構造図」を描きます。順番の「縦」と並べる「横」、話の筋の「背骨」と具体の「肉」を意識して組みます。

雨が降った ― だから → 地面がぬれた ― だから → すべりやすい

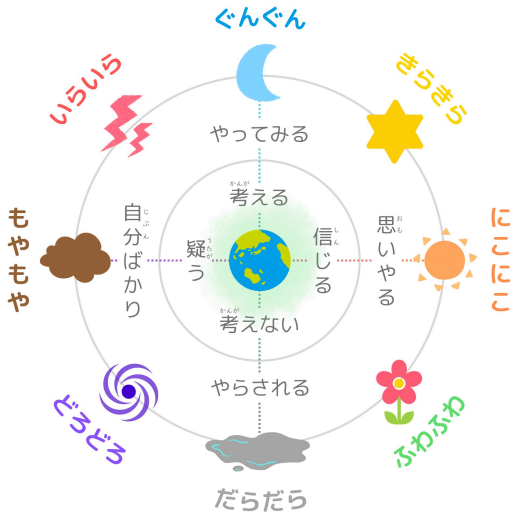
● Kまでは自分に、Sは人に

組み立てまでは自分にわかりやすく。整理（S）では、人に伝わる形に整えます。

● 学び合いが、深くなる

小学校から中学校まで、教科をまたいで同じ流れで考え続けると、子ども同士が「今どこをやっているか」を支え合えるようになります。

今の心は、どこにいる？



心マトリクス

心の状態を、2本の軸で見る地図

縦の軸：一生懸命やろう
上＝考えて、やってみる → ぐんぐん。下＝考えずに、やらされる → だらだら。

横の軸：人に優しくしよう
右＝人を信じて、思いやる → にこにこ。左＝疑う、自分ばかり → もやもや。

- **上と右がそろうと、きらきら（右上）**

ななめの4つ（きらきら・ふわふわ・どろどろ・いらいら）は、2本の軸の組み合わせ。学校生活も生きることも、多くはこの2本で説明できます。

- **教室に貼り、自分で点を打つ**

気持ちが変わったら貼り替え、何があったかを分け合う。気持ちと行動のつながりが見えてきます。

- **だらだらも、もやもやも、図の中にある**

「今ここ」と言えるだけで、子どもは安心します。構造になっているから、次にどうするかも描けます。

教室で大切にすること

一人ひとり、現在地は違う

01

現在地からの一歩

目標の近くから始める子も、遠くから始める子もいる。どの子も、今の場所を安心して踏むところからしか、先に進めません。

02

最低限の明示と、上限の解放

「これさえやればOK」をはっきり示すことと、「無限に賢くなっていい」と上限を開くことを、両方走らせます。100点の先も用意します。

03

☆のフィードバック

評価は、子どもに返すもの。ノートの良い所に線を引き、そこに星を付ける。どこがどれだけ良かったかが伝わります。



どこから始めますか？

ピンときた所から、一つ。どこから入ってもかまいません

知る　まず、実践にふれてみる

全国けテぶれ LINEで、実践発表を聞く

毎週土曜21時から、無料の実践発表会を開いています。申込は要りません。オープンチャットに流れる案内から参加できます。

ketebure.com/go/line-openchat

公式HPで、記事を読む

気になった言葉から、関連する記事や研修・書籍の案内を探せます。

ketebure.com

やってみる　3つの柱の、どれからでも

けテぶれから

漢字の宿題から

週1回の漢字の小テストに向けて、毎日の宿題をけテぶれで回します。失敗しても痛くなく、中身も単純だから始めやすい。初日は、先生のノートを丸ごとまねすれば合格です。

漢字が難しければ、生活から：朝に今日やることを決め、夕方にふり返る。

QNKSから

作文の指導から

けテぶれをしていなくても、QNKSは始められます。抜き出した言葉を線でつなぐだけでも十分。最初は先生が見本を見せてかまいません。

発問から板書へのまとめも、すでにQNKSの流れ。名前をつけて練習すると、子どもが自分で使えるようになります。

心マトリクスから

教室に貼るところから

導入にあまり悩まなくて大丈夫。貼っておいて「今どこ？」と聞くだけで、子どもは言えます。まず先生が、子どもを見取る道具として使ってみてください。

高学年は、物語や道徳など、自分と関係のない場面から出会わせると安心です。

先生自身も、知って、やってみて、語る。

けテぶれもQNKSも、まず先生が自分で回してみることが、いちばんの近道です。部分が全体のどこにつながるかの見通しさえあれば、入り口はどこでもかまいません。

このパンフレットは、研修・講座で自由に印刷・配布できます。校内研修・講演のご相談は公式HPのお問い合わせから。